

第3章 取組・評価書の記載方法及び添付図書例

第1 総論

取組・評価書は住宅用途、非住宅用途に分かれています。各項目の詳細については本文の該当頁を参照してください。

取組・評価書に記載した原則として全ての記述や数値に対して、対応する（確認できる）図書等を添付してください（収計図や照明姿図、場合によってはカタログの写しなど）。

添付図書例は一例を示しており、は必ず添付しなければならないものではありません。取組・評価書の記載内容が確認できるものであれば、他のもので代用してもかまいません。

添付書類の記載内容等が確認できる箇所を付箋や蛍光ペン等で明示していただけると処理をスムーズに行うことができます。また、取組・評価書のどの記述や数値のための添付図書であるかを付箋をつけていただけますよう、ご協力をお願いします。

第2 評価基準の任意記載項目・任意評価項目について

評価基準には選択可能な項目があります。

（任意記載項目） 特定建築主は取組に対する評価をするか否かを選択したうえで、自由に記載しアピールすることができます（記載しない場合は空欄のままにしてください）。

（任意評価項目） 適用することが任意である項目です。特定建築主は取組に対する評価するか否かを選択することができます（評価を行わない場合は「評価基準の適用」欄を「評価を行わない」としてください）。

第3 取組・評価書の記載方法及び添付図書例

1 住宅用途

「記載内容」欄のかっこ内は具体的な記載例を示しています。

項目	記載内容	添付図書例	頁
エネルギーの使用の合理化			
建築物の熱負荷の低減			
建築物の形状・配置、外壁・屋根の断熱、窓部の熱負荷の低減 ① 外壁及び屋根の断熱に係る事項 ② 窓部の日射遮へい及び断熱に係る事項 ③ その他の事項 (1) 外壁の断熱の仕様 (2) 屋根の断熱の仕様 (3) 床(外気に接する部分)の断熱の仕様 (4) 床(その他の部分)の断熱の仕様 (5) 土間床等の外周部(外気に接する部分)の断熱の仕様 (6) 土間床等の外周部(その他の部分)の断熱の仕様 (7) 開口部の建具の断熱の仕様 (8) 外皮平均熱貫流率 (9) 冷房期の平均日射熱取得率 (10) 各部位の熱貫流率 (11) 開口部の熱貫流率 (12) 窓の夏期日射侵入率 (参考) 評価基準を適用した住戸 (参考) エネルギーの使用の合理化に関する性能の目標	該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 (南東向、9階) (等級3)(有効利用計画書を提出している場合のみ)	・仕様書 ・一般図 ・省エネ計画書の写し又は住宅性能評価一覧表など(提出時に取得できていない場合には、自己評価でも可)	9

次のページに続きます

項目	記載内容	添付図書例	頁
エネルギーの使用の合理化			
再生可能エネルギーの利用			
再生可能エネルギーの直接利用 ① 太陽エネルギーを利用したシステムに係る事項 ② 風を利用したシステムに係る事項 ③ その他の事項	該当項目を選択 (2方向以上への開口) (地中温度を利用した)	・利用箇所が分かるもの(一般図など)	11
再生可能エネルギーの変換利用 ① 太陽光発電設備に係る事項 太陽光発電による容量、設置面積 ② 太陽熱を利用したシステムに係る事項・利用形態 太陽熱利用による容量、設置面積 ③ 地中熱を利用したシステムに係る事項・利用形態 地中熱利用容量 ④ バイオマスを利用したシステムに係る事項・利用形態 バイオマスを熱源とする熱を利用した発電による容量 バイオマスを熱源とする熱の利用による容量 ⑤ その他の事項 その他の再生可能エネルギー利用の仕様及び容量等 ⑥ 年間再生可能エネルギー変換利用量	該当項目を選択 図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記 (風力発電設備) 計算書等から転記	(太陽光発電等の設備の仕様や系統連系についてわかるもの) ・配置図(設置面積がわかるもの) ・配線図 ・機器仕様(容量がわかるもの) ・太陽光発電量のシミュレーション ・一次エネルギー量の計算書	12
省エネルギーシステム			
設備システムの省エネルギー ① 給湯システムの仕様 利用の有無 (1) 給湯システムの点数 ② 床暖房システムの仕様 利用の有無 (2) 床暖房システムの点数 ③ 空調システム(ビルトイン空調機)の仕様 利用の有無 (3) 空調システム(ビルトイン空調機)の点数 ④ 暖房機能付き給湯システムの仕様 利用の有無 (4) 暖房機能付き給湯システムの点数	該当項目を選択記載 該当項目を選択記載 該当項目を選択記載 該当項目を選択記載	(住戸設備のエネルギー消費効率、省エネルギー基準達成率、他段階評価がわかるもの) ・給排水衛生設備機器表 ・器具表 ・空気調和設備機器表 ・カタログ、仕様書など	13
資源の適正利用			
エコマテリアル			
再生骨材等利用(任意評価項目) ① 再生骨材等を利用したコンクリート等の使用の有無 ② ①の利用部位 ③ 再生骨材等の種類(再生骨材・その他)	該当項目を選択 (捨てコンクリート) (再生骨材L)	・使用が確認できるもの(仕様書など)	23
混合セメント等利用 ① 混合セメント等の利用の有無 ② ①の種類 ③ ①の利用部位	該当項目を選択 該当項目を選択 (場所打ち杭)	・使用が確認できるもの(仕様書など)	23
リサイクル鋼材利用 ① リサイクル鋼材の利用の有無 ② ①の構造用材料への利用の程度 ③ ①の利用部位	該当項目を選択 該当項目を選択 (小梁)	・使用が確認できるもの(仕様書など)	24
その他のエコマテリアルの使用(任意記載項目)	(自由記載)		24
オゾン層の保護及び地球温暖化の抑制			
断熱材用発泡剤 ① 主として使用する断熱材の種類 ② ①の利用部位 ③ ①のうち、発泡剤を利用している断熱材の有無 ④ 発泡剤の種類 (1) オゾン層破壊係数 (2) 地球温暖化係数	(硬質ウレタン) 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 記載 記載	使用する発泡剤のオゾン層破壊係数、地球温暖化係数がわかるもの(仕様書、カタログなど)	24
空気調和設備用冷媒(任意記載項目)	(該当項目を選択、又は自由記載)		25

次のページに続きます

項目	記載内容	添付図書例	頁
資源の適正利用			
長寿命化等			
維持管理、更新、改修、用途の変更等の自由度の確保 ①維持管理の容易性に係る事項 専用配管の維持管理に係る事項 共用配管の維持管理に係る事項 ②更新、改修、用途の変更等への対応に係る事項 階高、梁下の高さ、壁及び柱の位置	該当項目を選択 該当項目を選択 (十分な階高を確保) 図面等から転記(間取り又は用途の変更に支障となる壁・柱なし)	・住宅性能評価一覧表など維持管理対策等級が分かるもの(提出時に取得できていない場合には、自己評価でも可) ・一般図	26
躯体の劣化対策 RC造・SRC造 ①水セメント比に係る事項 ②かぶり厚さに係る事項 ③躯体の保護に係る事項 ④鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造以外の構造における躯体の耐久性の向上に係る事項 S造 ①鋼材の厚さに係る事項 ②鋼材の防錆の措置に係る事項 ③鉄骨造以外の構造における躯体の耐久性の向上に係る事項	(50%以下) 該当項目を選択 該当項目を選択 (JASS5に準拠する) (9mm) (めっきはHDZ55) (JASS6に準拠する)	・住宅性能評価一覧表など劣化対策等級が分かるもの(提出時に取得できていない場合には、自己評価でも可) ・仕様書	28
水循環			
雑用水利用(任意評価項目) ①雑用水の利用の有無 ②雑用水の利用方式 ③広域循環方式による再生水の供給区域の内外 供給エリア名 ④原水種別 ⑤利用先 (個別循環方式、地区循環方式又は雨水利用方式の場合) (1)処理方式 (2)計画水量 (雨水利用の場合のみ) (3)貯留槽(沈砂槽を含む。)容量 集水面積	該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 記載 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 計算書等から転記 計算書等から転記	・計画水量・貯留槽容量がわかるもの(給排水衛生設備機器表など) ・一般図 ・都市整備局に提出する雑用水利用・雨水浸透計画書など	33
自然環境の保全			
水循環			
雨水浸透(任意評価項目) ①敷地の状況 ②雨水浸透の方法 (1)雨水浸透量 (2)雨水浸透の能力	(平坦、粘土、GL-1.1m) 該当項目を選択 記載 記載	・雨水浸透施設の種類や雨水浸透量がわかるもの ・一般図 ・基礎地盤説明書 ・各区市に提出する雨水流出抑制施設設置計画書(計画書内に数値が無い場合は計算式を添付)など	34
緑化			
緑の量の確保 ①地上部における樹木の植栽等に係る事項 ②建築物上における樹木、芝、草花等の植栽に係る事項 (1)地上部の樹木の植栽等のなされた部分の面積(A) (2)建築物上の樹木、芝、草花等の植栽のなされた部分の面積(B) (3)総緑化面積(A(地上部の樹木の植栽等のなされた部分の面積)+B(建築物上の樹木、芝、草花等の植栽のなされた部分の面積)) (4)敷地面積(C) (5)総緑化面積の敷地面積に対する割合((A+B)/C)	(サツキツツジ) (ヒメシャラ) 図面等から転記 ※自動計算※ 記載 ※自動計算※	・都又は各区市に提出する緑化計画書など(樹種配置図、高木リスト等含む。写真は不要)	35

項目	記載内容	添付図書例	頁
自然環境の保全			
緑化			
緑の質の確保及び生態系への配慮 ①建築物上における樹木の量の確保に係る事項 (1) 建築物上の樹木の植栽のなされた部分の面積(D) (2) 点数 (3) 建築物上の緑化面積(E) (4) 建築物上の樹木の植栽のなされた部分の面積の建築物上の緑化面積に対する割合(D/E) ②高木の植栽に係る事項 (1) 高木の植栽のなされた部分の緑化面積(F) (2) 点数 (3) 高木の植栽のなされた部分の面積の総緑化面積に対する割合(F/A(地上部の樹木の植栽等のなされた部分の面積)+B(建築物上の樹木、芝、草花等の植栽のなされた部分の面積)) (4) 5mを超える高木の植栽の有無 ③既存の樹木の保全に係る事項 (1) 既存の樹木の植栽のなされた部分の面積 (2) 点数 (3) 幹周り1m以上の大径木の保存の有無	(サツキツツジ) 図面等から転記記載 図面等から転記 ※自動計算※ (メタセコイア) 図面等から転記記載 ※自動計算※ 該当項目を選択(イチョウ) 図面等から転記記載 該当項目を選択	・都又は各区市に提出する緑化計画書(樹種配置図、高木リスト等含む。写真は不要) ・高木の計算書(様式は任意) ※点数はP33の評価基準を参照	36
動植物の生息・生育環境、連続した緑の形成、樹木・芝・草花等の維持管理への配慮(任意記載項目)	(自由記載)		37
ヒートアイランド現象の緩和			
敷地と建築物の被覆対策 ① 緑地による対策評価面積(G) ② 水面による対策評価面積(H) ③ 保水性被覆材による対策評価面積(I) ④ 高反射率被覆材による対策評価面積(J) 総対策評価面積(G+H+I+J) 敷地面積(C) 総対策評価面積の敷地面積に対する割合((G+H+I+J)/C)	図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記 ※自動計算※ 図面等から転記 ※自動計算※	・植栽図 ・配置図 ・都又は各区市に提出する緑化計画書(樹種配置図、高木リスト等含む。写真は不要)	39
風環境への配慮(任意評価項目) 望ましい風環境の確保を図るために行う建築物の形状及び配置に係る事項 (1) 見付幅(K) (2) 夏の主風向に直交する最大敷地幅(L) (3) 見付幅比(K/L) (4) 夏の主風向に直交する最大空地幅(M) (5) 最大高さ(N) (6) 最大空地幅比(M/N)	(主風向の真南に配置角度を調整した) 図面等から転記 図面等から転記 ※自動計算※ 図面等から転記 図面等から転記 ※自動計算※	・見付幅等がわかるもの(配置図に最大敷地幅、最大空地幅を図示したものなど) ・立面図	41
再生可能エネルギー利用設備導入検討シート(太陽光発電)			
1 物理的条件の検討			44
(1) 日照条件の検討 ア 検討対象とする場所及び方位 イ アの周囲における日射遮蔽物 ウ 日照の確保(冬至) エ 日照の確保(年間)	図面等から転記 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択	・配置図 ・冬至における日照時間がわかるもの(日照関係図表など)、「日照の確保が不十分」を選択している場合のみ)	
(2) 日照条件に適合する場所の検討 ア 設置可能場所の面積 イ 利用設備に対する荷重対策 ウ 設置に備えた対応	図面等から転記 該当項目を選択 該当項目を選択	・配置図(設置可能場所と面積を図示)	
(3) 導入する／導入を見送る	該当項目を選択		

次のページに続きます

第3章 取組・評価書の記載方法及び添付書類例

項目	記載内容	添付図書例	頁
再生可能エネルギー利用設備導入検討シート（太陽光発電）			
2 詳細条件検討（1で導入の可能性がある場合）			44
全量固定価格買取制度の導入	該当する場合に選択		
(1) 再生可能エネルギー利用設備に係る計画概要 ア 想定発電量 イ 設置パネルの設置角度・面積	計算書等から転記 図面等から転記	・発電パネルの面積や設置角度のわかるもの（システム系統図、仕様書など） ・想定発電量の計算書	
(2) 環境負荷低減効果 当該特定建築物における一次エネルギー換算の削減量の想定	図面等から転記	一次エネルギー換算の削減量がわかるもの（省エネ計画書の写し、想定発電量の計算書など）	
(3) コスト検討 ア 概算金額の検討 イ 補助金の検討 ウ 投資回収想定年数	記載（※公表しない※） 記載（※公表しない※） 記載（※公表しない※）		
再生可能エネルギー利用設備導入検討シート（太陽熱利用）			
1 物理的条件の検討			44
(1) 日照条件の検討 ア 検討対象とする場所及び方位 イ アの周囲における日射遮蔽物 ウ 日照の確保（冬至） エ 日照の確保（年間）	図面等から転記 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択	・配置図 ・冬至における日照時間がわかるもの（日照関係図表など）（「日照の確保が不十分」を選択している場合のみ）	
(2) 熱需要の条件等の検討 ア 建築物の用途 イ 主たる熱源方式 ウ 設置可能場所の面積 エ 利用設備に対する荷重対策 オ 設置に備えた対応	図面等から転記 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択	・配置図（設置可能場所と面積を図示）	
(3) 導入する／導入を見送る	該当項目を選択		
2 詳細条件検討（1で導入の可能性がある場合）			44
(1) 再生可能エネルギー利用設備に係る計画概要 ア 想定年間集熱量 イ 設置パネルの設置角度・面積 ウ 太陽熱利用設備の対象負荷	計算書等から転記 図面等から転記 該当項目を選択	・集熱器の面積や設置角度のわかるもの（システム系統図、仕様書など） ・想定発電量の計算書	
(2) 環境負荷低減効果 一次エネルギー換算の削減量の想定	図面等から転記	一次エネルギー換算の削減量がわかるもの（省エネ計画書の写し、想定発電量の計算書など）	
(3) コスト検討 ア 概算金額の検討 イ 補助金の検討 ウ 投資回収想定年数	記載（※公表しない※） 記載（※公表しない※） 記載（※公表しない※）		

2 非住宅用途

「記載内容」欄のかつこ内は具体的な記載例を示しています。

項目	記載内容	添付図書例	頁
エネルギーの使用の合理化			
建築物の熱負荷の低減			
建築物の形状・配置、外壁・屋根の断熱、窓部の熱負荷の低減 ① 建築物の形状及び配置に係る事項 ② 外壁及び屋根の断熱に係る事項 (1) 主たる外壁の仕様 (2) 屋根の仕様 ③ 窓部の断熱に係る事項 ④ 窓部の日射遮へいに係る事項 (3) 窓部の仕様 ⑤ その他の事項 ⑥ PAL*の低減率 (1) PAL*の値 (2) PAL*の基準値 (参考) エネルギーの使用の合理化に関する性能の目標値(PALの低減率)	(非空調室を西面配置) 該当項目を選択 (窓以外の外壁は西面) 省エネ計画書から転記 該当項目を選択 該当項目を選択 省エネ計画書から転記 (窓部ダブルスキン) ※自動入力されます※ 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 (10%) (有効利用計画書を提出している場合のみ)	・仕様書 ・一般図 ・省エネ計画書の写し	9
再生可能エネルギーの利用			
再生可能エネルギーの直接利用 ① 太陽エネルギーを利用したシステムに係る事項 ② 風を利用したシステムに係る事項 ③ パンプソーラーシステムの利用に係る事項 ④ 地中熱の利用に係る事項 ⑤ その他の事項 ⑥ 再生可能エネルギーの利用に伴う年間一次エネルギー消費量の低減量	該当項目を選択 該当項目を選択 (トップライトの設置) 該当項目を選択 省エネ計画書から転記	・利用箇所が分かるもの(一般図など) ・想定される低減量の計算書等	11
再生可能エネルギーの変換利用 ① 太陽光発電設備に係る事項 太陽光発電による容量、設置面積 ② 太陽熱を利用したシステムに係る事項・利用形態 太陽熱利用による容量、設置面積 ③ 地中熱を利用したシステムに係る事項・利用形態 地中熱利用容量 ④ バイオマスを利用したシステムに係る事項・利用形態 バイオマスを熱源とする熱を利用した発電による容量 バイオマスを熱源とする熱の利用による容量 ⑤ その他の事項 その他の再生可能エネルギー利用の仕様及び容量等 ⑥ 年間再生可能エネルギー変換利用量	該当項目を選択 図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記 (風力発電設備) 図面等から転記	(太陽光発電等の設備の仕様や系統連系についてわかるもの) ・配置図(設置面積がわかるもの) ・配線図 ・機器仕様(容量がわかるもの) ・太陽光発電量のシミュレーション ・一次エネルギー量の計算	12
省エネルギーシステム			
設備システムの省エネルギー 空気調和の熱源側設備 ① 設備の概要 ・エネルギー源 ・機器の選定 (1) 冷熱源の容量 (2) 温熱源の容量 (3) 熱源機器の構成 ② 設備機器のシステムの構築に係る事項 (コージェネレーションシステムを導入している場合) ③ 形式 ④ 排熱利用の有無 (1) 発電容量、台数、発電効率 (2) 発電割合(発電容量/契約電力量) (3) 排熱利用率 (4) 総合効率 ⑤ 利用先	該当項目を選択 (ヒートポンプパッケージ) 省エネ計画書から転記 省エネ計画書から転記 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記	・当該項目の選択内容が確認できるもの(一般図、省エネ計画書の写し、カタログ、各種図面など) ※コージェネレーションシステムは、空調排熱を利用している場合に記載してください。給湯のみに利用している場合は記載不要です。	13

第3章 取組・評価書の記載方法及び添付書類例

項目	記載内容	添付図書例	頁
<p>(蓄熱方式を導入している場合)</p> <p>⑥ 形式</p> <p>⑦ 蓄熱槽設置場所</p> <p>(1) 蓄熱容量</p> <p>(2) 蓄熱量</p> <p>(3) ピーク負荷日の夜間移行率</p> <p>⑧ その他の事項</p> <p>空気調和の二次側設備</p> <p>① 設備の概要(インテリアゾーン・ペリメータゾーン)</p> <p>② 空気調和負荷の低減に係る事項</p> <p>③ 送風のための動力の低減に係る事項</p> <p>④ その他の事項</p> <p>⑤ 設計一次エネルギー消費量</p> <p>⑥ 基準一次エネルギー消費量</p> <p>⑦ 想定による計算の箇所の有無</p> <p>機械換気設備</p> <p>① 設備機器のシステムの構築に係る事項</p> <p>② 制御のシステムの構築に係る事項</p> <p>③ その他の事項</p> <p>④ 設計一次エネルギー消費量</p> <p>⑤ 基準一次エネルギー消費量</p> <p>⑥ 想定による計算の箇所の有無</p> <p>照明設備</p> <p>① 設備機器のシステムの構築に係る事項</p> <p>② 制御のシステムの構築に係る事項</p> <p>③ その他の事項</p> <p>④ 設計一次エネルギー消費量</p> <p>⑤ 基準一次エネルギー消費量</p> <p>⑥ 想定による計算の箇所の有無</p> <p>給湯設備</p> <p>① 設備の概要(給湯方式、給湯温度)</p> <p>② 設備機器のシステムの構築に係る事項</p> <p>③ その他の事項</p> <p>④ 設計一次エネルギー消費量</p> <p>⑤ 基準一次エネルギー消費量</p> <p>昇降機</p> <p>① 設備の概要 形式</p> <p>② その他の事項</p> <p>③ 設計一次エネルギー消費量</p> <p>④ 基準一次エネルギー消費量</p> <p>エネルギー利用効率化設備</p> <p>① コージェネレーションシステム</p> <p>(1) コージェネレーションシステムによる低減量</p> <p>② 太陽光発電システム</p> <p>(2) 太陽光発電システムによる低減量</p> <p>③ その他</p> <p>(3) その他の設備による低減量</p> <p>全体</p> <p>設備システム全体のエネルギー利用の低減率(ERR)</p> <p>(参考)エネルギーの使用の合理化に関する性能の目標値(ERR)</p>	<p>該当項目を選択</p> <p>該当項目を選択</p> <p>図面等から転記</p> <p>図面等から転記</p> <p>図面等から転記</p> <p>(ヒートポンプパッケージ)</p> <p>該当項目を選択</p> <p>該当項目を選択</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>該当項目を選択</p> <p>該当項目を選択</p> <p>該当項目を選択</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>該当項目を選択</p> <p>該当項目を選択</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>該当項目を選択</p> <p>該当項目を選択</p> <p>(グラスウール 20mm)</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>該当項目を選択</p> <p>該当項目を選択</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>省エネ計画書から転記</p> <p>計算書等から転記</p> <p>計算書等から転記</p> <p>計算書等から転記</p> <p>※自動入力されます※ (10%) (有効利用計画書を提出している場合のみ)</p>	<p>※左記のコージェネレーションシステムは、給湯のみに利用している場合でも記載してください。</p>	

次のページに続きます

項目	記載内容	添付図書例	頁
エネルギーの使用の合理化			
地域における省エネルギー			
地域冷暖房等(延べ面積1万㎡以下に限り任意評価項目) ① 地域冷暖房区域の指定の有無 ② 地域冷暖房の熱の受入れの有無 ③ 地域冷暖房区域の名称 ④ ②のほか複数の建築物間で行う効率的なエネルギー利用 ⑤ 利用可能エネルギーを利用したシステム ⑥ 契約容量 蒸気、温水、冷水 ⑦ 地域エネルギー供給事業者から受け入れる熱のエネルギー効率の値	該当項目を選択 該当項目を選択 記載 (熱融通) 該当項目を選択 記載	熱を受け入れていることがわかるもの(空調和設備配管系統図、空調和設備機器表など)	16
効率的な運用の仕組み			
最適運用のための計量及びエネルギー管理システム(延べ面積1万㎡以下に限り任意評価項目) ① 評価の対象となる熱源方式 ② ガス、電力及び冷温熱のエネルギーの量の計量設備の系統別の設置に係る事項 (1) 事項の詳細 ・ 全体、エネルギー種別計測 ・ エネルギー用途別計測 ・ エネルギー系統別計測 ・ 特定機器、フロア単位 ③ BEMSの導入に係る事項 (1) 事項の詳細 ・ データ採取、タイムプログラム等基本的制御、監視の導入 ・ 維持管理、応用的制御、エネルギー消費分析及び管理 ④ その他の運用上の事項	該当項目を選択 (ガス、電気) (空調熱源、照明、コンセントの電力量、空調熱源のガス量) (電気はスパンごと計量) (エネルギー消費量の大きなポンプの電力量) 該当項目を選択 該当項目を選択 (テナント別の料金に換算する機能あり)	計量設備についてわかるもの(中央監視制御装置システム構成図、中央監視制御装置中央管理点入出力一覧表など)	18
最適運用のための運転調整と性能の把握(延べ面積1万㎡以下に限り任意評価項目) ① 年間一次エネルギー消費量の予測値 ② 特定建築物の運用計画に基づく建築設備の稼働条件 ③ 年間一次エネルギー消費量の予測及び実測を行う旨の委託契約書等への明記の有無 ④ 空調和設備及び機械換気設備の年間一次エネルギー消費量の予測及び実測の計画の有無 ⑤ 次の設備におけるエネルギー利用の効率の算定の計画の有無に係る事項 熱源設備のエネルギー消費効率 算定対象機器及び範囲 熱源機器のエネルギー消費効率 算定対象機器及び範囲 熱源機器の負荷率 算定対象機器及び範囲 冷温水又は冷却水を搬送する設備の水搬送効率 算定対象機器及び範囲 空調和機設備における空気搬送効率 算定対象機器及び範囲 ⑥ その他の設備におけるエネルギーの使用の合理化に関する性能の把握に係る調査 ⑦ 設備機器及び制御機器の運転及び調整に関する事項並びに空調和設備及び機械換気設備における年間一次エネルギー消費量の予測及び実測を行う旨の委託仕様書等への明記 (1) 調整を行う時期及び実施箇所 (2) 調整を行う設備機器 (3) 調整の方法の概要	(2,000MJ/㎡年) 省エネ計画書等から転記 記載 該当項目を選択 該当項目を選択 記載 該当項目を選択 記載 該当項目を選択 記載 該当項目を選択 記載 該当項目を選択 記載 記載 記載 記載	予測や運転調整が行われることがわかるもの(委託仕様書、中央監視制御装置システム構成図など)	21

項目	記載内容	添付図書例	頁
資源の適正利用			
エコマテリアル			
再生骨材等利用（任意評価項目） ① 再生骨材等を利用したコンクリート等の使用の有無 ② ①の利用部位 ③ 再生骨材等の種類（再生骨材・その他）	該当項目を選択 （捨てコンクリート） （再生骨材L）	使用が確認できるもの（仕様書など）	23
混合セメント等利用 ① 混合セメント等の利用の有無 ② ①の種類 ③ ①の利用部位	該当項目を選択 該当項目を選択 （場所打ち杭）	使用が確認できるもの（仕様書など）	23
リサイクル鋼材利用 ① リサイクル鋼材の利用の有無 ② ①の構造用材料への利用の程度 ③ ①の利用部位	該当項目を選択 該当項目を選択 （小梁）	使用が確認できるもの（仕様書など）	24
その他のエコマテリアルの使用（任意記載項目）	（自由記載）		24
オゾン層の保護及び地球温暖化の抑制			
断熱材用発泡剤 ① 主として使用する断熱材の種類 ② ①の利用部位 ③ ①のうち、発泡剤を利用している断熱材の有無 ④ 発泡剤の種類 （1）オゾン層破壊係数 （2）地球温暖化係数	（硬質ウレタン） 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 記載 記載	使用する発泡剤のオゾン層破壊係数、地球温暖化係数がわかるもの（仕様書、カタログなど）	24
空気調和設備用冷媒（任意評価項目） 採用した空気調和設備の冷媒の種類 ・利用場所 （1）冷媒の量 （2）オゾン層破壊係数 （3）地球温暖化係数	該当項目を選択 図面等から転記 記載 記載 記載	冷媒の種類と量がわかるもの（仕様書、カタログ、計算式など）	25
長寿命化等			
維持管理、更新、改修、用途の変更等の自由度の確保 ① 維持管理の容易性に係る事項 ② 更新、改修、用途の変更への対応に係る事項 （1）階高（基準階部分） （2）天井高（基準階部分） （3）OAフロア高（基準階部分） （4）設計荷重（基準階部分）	（維持管理ルートの確保） 図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記	・仕様書 ・一般図	26
躯体の劣化対策 RC造・SRC造（全用途共通） ① 水セメント比に係る事項 ② かぶり厚さに係る事項 ③ 躯体の保護に係る事項 ④ 鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造以外の構造における躯体の耐久性の向上に係る事項 S造（住宅用途のみ） ① 鋼材の厚さに係る事項 ② 鋼材の防錆の措置に係る事項 ③ 鉄骨造以外の構造における躯体の耐久性の向上に係る事項	（65%以下） 該当項目を選択 該当項目を選択 （JASS5に準拠する） （9mm） （めっきはHDZ55） （JASS6に準拠する）	かぶり厚さが確認できるもの（仕様書、コンクリート配筋基準図など）	28
短寿命建築物の建設資材の再使用対策等 ① 構造材の再使用及び再生利用に係る事項 ② 内装材及び外装材の再使用又は再生利用に係る事項	（リサイクル率100%） （リサイクル率95%）	再利用することが確認できるもの	32

次のページに続きます

項目	記載内容	添付図書例	頁
資源の適正利用			
水循環			
雑用水利用（任意評価項目） ① 雑用水の利用の有無 ② 雑用水の利用方式 ③ 広域循環方式による再生水の供給区域の内外供給エリア名 ④ 原水種別 ⑤ 利用先 （個別循環方式、地区循環方式又は雨水利用方式の場合） (1) 処理方式 (2) 計画水量 （雨水利用の場合のみ） (3) 貯留槽（沈砂槽を含む。）容量 集水面積	該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 記載 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 計算書等から転記 計算書等から転記	・計画水量・貯留槽容量がわかるもの（一般図、給排水衛生設備機器表など） ・都市整備局に提出する雑用水利用・雨水浸透計画書など	33
自然環境の保全			
水循環			
雨水浸透（任意評価項目） ① 敷地の状況 ② 雨水浸透の方法 (1) 雨水浸透量 (2) 雨水浸透の能力	（平坦、粘土、GL-1.1m） 該当項目を選択 記載 記載	・雨水浸透施設の種類・雨水浸透量がわかるもの ・一般図 ・基礎地盤説明書 ・各区に提出する雨水流出抑制施設設置計画書（計画書内に数値が無い場合は計算式を添付）など	34
緑化			
緑の量の確保 ① 地上部における樹木の植栽等に係る事項 ② 建築物上における樹木、芝、草花等の植栽に係る事項 (1) 地上部の樹木の植栽等のなされた部分の面積（A） (2) 建築物上の樹木、芝、草花等の植栽のなされた部分の面積（B） (3) 総緑化面積（A（地上部の樹木の植栽等のなされた部分の面積）+B（建築物上の樹木、芝、草花等の植栽のなされた部分の面積）） (4) 敷地面積（C） (5) 総緑化面積の敷地面積に対する割合（(A+B)/C）	（サツキツツジ） （ヒメシャラ） 図面等から転記 ※自動計算※ 記載 ※自動計算※	・都又は各区市に提出する緑化計画書など（樹種配置図、高木リスト等含む。写真は不要）	35
緑の質の確保及び生態系への配慮 ① 建築物上における樹木の量の確保に係る事項 (1) 建築物上の樹木の植栽のなされた部分の面積（D） (2) 点数 (3) 建築物上の緑化面積（E） (4) 建築物上の樹木の植栽のなされた部分の面積の建築物上の緑化面積に対する割合（D/E） ② 高木の植栽に係る事項 (1) 高木の植栽のなされた部分の緑化面積（F） (2) 点数 (3) 高木の植栽のなされた部分の面積の総緑化面積に対する割合（F/A：地上部の樹木の植栽等のなされた部分の面積+B：建築物上の樹木、芝、草花等の植栽のなされた部分の面積） (4) 5mを超える高木の植栽の有無 ③ 既存の樹木の保全に係る事項 (1) 既存の樹木の植栽のなされた部分の面積 ^{m²} (2) 点数 (3) 幹周り1m以上の大径木の保存の有無	（サツキツツジ） 図面等から転記 記載 図面等から転記 ※自動計算※ （メタセコイア） 図面等から転記 記載 ※自動計算※ 該当項目を選択 （イチョウ） 図面等から転記 記載 該当項目を選択 （自由記載）	・都又は各区市に提出する緑化計画書（樹種配置図、高木リスト等含む。写真は不要） ・高木の計算書（様式は任意） ※点数はP33の評価基準を参照	36
動植物の生息・生育環境、連続した緑の形成、樹木・芝・草花等の維持管理への配慮（任意記載項目）	（自由記載）		37

項目	記載内容	添付図書例	頁
ヒートアイランド現象の緩和			
建築設備からの人工排熱対策（任意評価項目） (1) 延べ面積当たりの1日の人工排熱の顕熱量 (2) 延べ面積当たりの1日の人工排熱の全熱量	(1.5MJ/m ²) (3.0MJ/m ²)	・人工排熱計算書(環境局 HP からダウンロード) ・入力数値がわかるもの(設備機器表など)	38
敷地と建築物の被覆対策 ① 緑地による対策評価面積 (G) ② 水面による対策評価面積 (H) ③ 保水性被覆材による対策評価面積 (I) ④ 高反射率被覆材による対策評価面積 (J) 総対策評価面積(G+H+I+J) 敷地面積 (C) 総対策評価面積の敷地面積に対する割合 ((G+H+I+J)/C)	図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記 図面等から転記 ※自動計算※ 図面等から転記 ※自動計算※	・植栽図 ・配置図 ・都又は各区市に提出する緑化計画書(樹種配置図、高木リスト等含む。写真は不要)	39
風環境への配慮（任意評価項目） 望ましい風環境の確保を図るために行う建築物の形状及び配置に係る事項 (1) 見付幅 (K) (2) 夏の主風向に直交する最大敷地幅 (L) (3) 見付幅比 (K/L) (4) 夏の主風向に直交する最大空地幅 (M) (5) 最大高さ (N) (6) 最大空地幅比 (M/N)	(主風向の真南に配置角度を調整した) 図面等から転記 図面等から転記 ※自動計算※ 図面等から転記 図面等から転記 ※自動計算※	・見付幅等がわかるもの(配置図に最大敷地幅、最大空地幅を図示したもの) ・立面図	41
再生可能エネルギー利用設備導入検討シート（太陽光発電）			
1 物理的条件の検討			44
(1) 日照条件の検討 ア 検討対象とする場所及び方位 イ アの周囲における日射遮蔽物 ウ 日照の確保(冬至) エ 日照の確保(年間)	図面等から転記 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択	・配置図 ・冬至における日照時間がわかるもの(日照関係図表など)。「日照の確保が不十分」を選択している場合のみ)	
(2) 日照条件に適合する場所の検討 ア 設置可能場所の面積 イ 利用設備に対する荷重対策 ウ 設置に備えた対応	図面等から転記 該当項目を選択 該当項目を選択	・配置図(設置可能場所と面積を図示)	
(3) 導入する／導入を見送る	該当項目を選択		
2 詳細条件検討（1で導入の可能性のある場合）			44
(1) 再生可能エネルギー利用設備に係る計画概要 ア 想定発電量 イ 設置パネルの設置角度・面積	図面等から転記 図面等から転記		
(2) 環境負荷低減効果 当該特定建築物における一次エネルギー換算の削減量の想定	図面等から転記	・発電パネルの面積や設置角度のわかるもの(システム系統図、仕様書など) ・想定発電量の計算書	
(3) コスト検討 ア 概算金額の検討 イ 補助金の検討 ウ 投資回収想定年数	記載(※公表しない※) 記載(※公表しない※) 記載(※公表しない※)	一次エネルギー換算の削減量がわかるもの(省エネ計画書の写し、想定発電量の計算書など)	

次のページに続きます

第3章 取組・評価書の記載方法及び添付書類例

項目	記載内容	添付図書例	頁
再生可能エネルギー利用設備導入検討シート（太陽熱利用）			
1 物理的条件の検討			44
(1) 日照条件の検討 ア 検討対象とする場所及び方位 イ アの周囲における日射遮蔽物 ウ 日照の確保(冬至) エ 日照の確保(年間)	図面等から転記 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択	・配置図 ・冬至における日照時間がわかるもの（日照関係図表など）（「日照の確保が不十分」を選択している場合のみ）	
(2) 熱需要の条件等の検討 ア 建築物の用途 イ 主たる熱源方式 ウ 設置可能場所の面積 エ 利用設備に対する荷重対策 オ 設置に備えた対応	図面等から転記 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択 該当項目を選択	・配置図（設置可能場所と面積を図示）	
(3) 導入する／導入を見送る	該当項目を選択		
2 詳細条件検討（1で導入の可能性がある場合）			44
(1) 再生可能エネルギー利用設備に係る計画概要 ア 想定年間集熱量 イ 設置パネルの設置角度・面積 ウ 太陽熱利用設備の対象負荷	計算書等から転記 図面等から転記 該当項目を選択	・集熱器の面積や設置角度のわかるもの（システム系統図、仕様書など） ・想定発電量の計算書	
(2) 環境負荷低減効果 一次エネルギー換算の削減量の想定	図面等から転記	一次エネルギー換算の削減量がわかるもの（省エネ計画書の写し、想定発電量の計算書など）	
(3) コスト検討 ア 概算金額の検討 イ 補助金の検討 ウ 投資回収想定年数	記載（※公表しない※） 記載（※公表しない※） 記載（※公表しない※）		